

キネマまつぶんシアター VOL.6

大槻 貴宏 プロデュース映画 2作品上映会

長野県出身 信濃毎日新聞「シネマ魅どころ」映画評論担当



ゲスト：山口淳太（監督） 大槻貴宏（プロデューサー）

10/14 (土) 13:30開演
2023年 [13:00開場]

キッセイ文化ホール | 長野県松本文化会館 | 大ホール

入場料 一般 2,000円 シニア 1,500円 U-25 1,000円 (全席指定・税込)
(65歳以上)

スケジュール

13:30 『リバー、流れないでよ』上映
休憩(15分予定)

15:30 『ドロステのはてで僕ら』上映

※各作品上映後にゲストトークを行います。

※入替なし。1作品だけのご鑑賞も可能です。

プレイガイド | 窓口・電話予約 | キッセイ文化ホール ☎0263-34-7100

| 窓口 | 井上プレイガイド、平安堂あづみ野店、
ホクト文化ホール、長野県伊那文化会館

| インターネット | (一財)長野県文化振興事業団
<https://p-ticket.jp/naganobunka>



主催 キッセイ文化ホール(一般財団法人長野県文化振興事業団)

共催 長野県／長野県教育委員会

後援 信濃毎日新聞社／市民タイムス／MGプレス

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※車椅子席をご希望の方はキッセイ文化ホールまでお問い合わせください。

※65歳以上、25歳以下の方は、当日、年齢確認のできる身分証明書等の提示をお願いする場合がございます。

※駐車場に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

大槻 貴宏 プロデュース映画 2作品上映会

長野県出身 信濃毎日新聞「シネマ魅どころ」映画評論担当

長野県出身の映画プロデューサーで東京の映画館下北沢トリウッドとポレポレ東中野の代表を務める大槻貴宏がプロデュースする注目の2作品を上映します。

『リバー、流れないでよ』

2023年/日本/86分/製作トリウッド、ヨーロッパ企画/配給トリウッド

監督・編集：山口淳太

原案・脚本：上田誠

出演：藤谷理子、鳥越裕貴、永野宗典、角田貴志、酒井善史、諏訪雅、石田剛太、中川晴樹、土佐和成、早織、久保史緒里(乃木坂46・友情出演)、本上まなみ、近藤芳正



『夜は短し歩けよ乙女』『四畳半タイムマシンブルース』の脚本や、『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』日本語吹替脚本を手掛ける上田誠率いる劇団ヨーロッパ企画。本作『リバー、流れないでよ』は、世界27カ国53の映画祭で上映&23もの賞を受賞した第1弾『ドロステのはてで僕ら』に続き、上田誠が原案・脚本を、映像ディレクターの山口淳太が監督を務める、ヨーロッパ企画制作によるオリジナル長編映画第2弾。

京の奥座敷と呼ばれる貴船を舞台に、繰り返す2分間のループから抜け出せなくなった人々の混乱を描く群像劇。老舗料理旅館「ふじや」で働く仲居ミコト役の藤谷理子(ヨーロッパ企画)、料理人見習いのタク役の鳥越裕貴をはじめ、本上まなみ、早織、そして近藤芳正。更にももちろん永野宗典、角田貴志、酒井善史、諏訪雅、石田剛太、中川晴樹、土佐和成らヨーロッパ企画メンバーも出演。また、乃木坂46の久保史緒里が物語の鍵を握るキャラクターで友情出演を果たす。主題歌として、京都出身のロックバンド・くるが、EP作品『愛の太陽 EP』の収録曲「Smile」を楽曲提供。木管楽器がフィーチャーされたあたたかいムードの楽曲が、ドラマを盛り上げる。

ロケは、貴船神社と料理旅館「ふじや」の全面協力を得て、2023年1月に敢行。1月24日から、10年に1度と呼ばれる最強寒波直撃による豪雪で撮影中止に追い込まれるも、奇跡のリカバーで2月〜3月に追撮を行うことができ、無事に完成。凜とした静寂を纏う冬の貴船と、2分のループという新たな時の牢獄から抜け出すべく必死な大人たちのギャップが楽しい、前人未到のタイムループコメディがここに誕生した。

<ストーリー>

舞台は、京都・貴船の老舗料理旅館「ふじや」。静かな冬の貴船。ふじやで働く仲居のミコトは、別館裏の貴船川のほとりに佇んでいたところを女将に呼ばれ仕事へと戻る。だが2分後、なぜか再び先ほどと同じく貴船川を前にしている。「……？」

ミコトだけではなく、番頭や仲居、料理人、宿泊客たちはみな異変を感じ始めた。ずっと熱くならない熱燗。なくなっていくの雑炊。永遠に出られない風呂場。自分たちが「ループ」しているのだ。しかもちょうど2分間！

2分経つと時間が巻き戻り、全員元いた場所に戻ってしまう。そして、それぞれの“記憶”だけは引き継がれ、連続している。そのループから抜け出したい人、とどまりたい人、それぞれの感情は乱れ始め、それに合わせるように雪が降ったりやんだり、貴船の世界線が少しずつバグを起こす。力を合わせ原因究明に臨む皆を見つ、ミコトは一人複雑な思いを抱えていた――。

『ドロステのはてで僕ら』

2020年/日本/70分/製作トリウッド、ヨーロッパ企画/配給トリウッド

監督・編集・撮影：山口淳太

原案・脚本：上田誠

出演：土佐和成、朝倉あき、藤谷理子、角田貴志、石田剛太、諏訪雅、中川晴樹、酒井善史、永野宗典、本多力



毎年の本公演で1万5千人を動員する人気劇団ヨーロッパ企画。本公演以外にも、映画やドラマの脚本執筆やイベント、バラエティ番組制作、ラジオ、携帯アプリ開発など、演劇の枠に捉われず、多方面にわたってコンテンツ制作を展開。役者ひとりひとりが短編映画の監督を手がけるなど、劇団でありながら、映画や映像作品にも注力してきた。

そして2020年、ヨーロッパ企画として初めて劇団全員で取り組むオリジナル長編映画『ドロステのはてで僕ら』が完成。彼らのホームグラウンドである京都・二条のカフェで撮影を敢行。その後、クラウドファンディングプラットフォーム「Motion Gallery」にて国内外の上映に向けた支援を募集したところ、なんと開始から1日も経たずに目標達成率100%を突破、最終的に達成率617%を記録し、劇団にとって、満を持しての映画製作への期待の高さをうかがわせた。

原案・脚本は、劇団代表、上田誠(『サマータイムマシン・ブルース』『夜は短し歩けよ乙女』『前田建設ファンタジー営業部』)。メガホンをとるのは、ヨーロッパ企画の映像ディレクター、山口淳太(『監視視捜査資料管理室』)。そして出演は、ヨーロッパ企画と藤谷理子、ヒロイン役には、『かぐや姫の物語』『四月の永い夢』『七つの会議』『仮面病棟』などで知られ、ヨーロッパ企画とは初タッグとなる、若手実力派・朝倉あき。そして、京都出身の7人組バンド、バレーボウイズによる主題歌「タイトルコール」が、エンディングを爽やかに盛り上げる。

これまで時間やSFをテーマにするのを得意としてきたヨーロッパ企画が手がけた、まさに「時間SF映画」の決定版。合成を一切使わない上、全編長回し撮影でタイムトリップを映像化する――その無謀ともいえる挑戦を、劇団ならではの結束力で乗り越えた奇跡の瞬間が連なる70分！

<ストーリー>

とある雑居ビルの2階。カウトがギターを弾こうとしていると、テレビの中から声がする。見ると、画面には自分の顔。しかもこちらに向かって話しかけている。

「オレは、未来のオレ。2分後のオレ。」どうやらカウトのいる2階の部屋と1階のカフェが、2分の時差で繋がっているらしい。“タイムテレビ”の存在を知り、テレビとテレビを向かい合わせて、もっと先の未来を知ろうと躍起になるカフェの常連たち。さらに隣人の理容師メグミや5階に事務所を構えるヤミ金業者、カフェに訪れた謎の2人組も巻き込み、「時間的ハウリング」は加速度的に事態をややくしくしていく……。襲いかかる未来、抗えない整合性。ドロステのはてで僕らは――。

ドロステとは？ 絵の中の人物が自分の描かれた絵を持ち、その絵の中の人物も自分が描かれた絵を持ち……という、無限に続く入れ子のような構図のこと。

ゲスト

山口 淳太 やまぐち じゅんた

2005年にヨーロッパ企画に参加。映画やドラマ、CM、ドキュメンタリーなど、映像コンテンツの演出・撮影・編集まで全て行うオールインワンタイプのディレクターとして幅広く活躍。2020年に映画『ドロステのはてで僕ら』の監督を務め、同作は多数の海外映画祭で賞を受賞し、多くの国で配給もされた。また、クリープハイプ「イト」MVや、「あいつが上手で下手が僕で」、「恋に無駄口」など連続ドラマの監督も手がける。

大槻 貴宏 おおつき たかひろ

1999年に下北沢トリウッドを設立。新海誠、深川栄洋、吉田恵輔など新人監督の作品を発掘、上映する。2003年にはポレポレ東中野を開館。ドキュメンタリーや若手作家中心のプログラムを組み、運営を続けている。プロデュース作品には、『劇場版神聖かまってちゃん ロックンロールは鳴りやまないっ』(監督：入江悠)、『アラヤシキの住人たち』(監督：本橋成一)、『ユートピア』(監督：伊藤峻太)などがある。